

STEP
01

とりあえず書いてみよう

レポートは誰にでも書ける、レポートの構成、とりあえず書いてみよう

- ・レポートが「序論・本論・結論」の構成を持つこと、その目的は伝えたいことを確実に伝えることにあること、「起承転結」のエッセイとは違うこと、を説明する回です。

準備

- ・レジメ（資料も含めて4ページ）
- ・ワークシート（1ページ）

進め方

1. レポートは誰にでも書ける

レジメのとおりです。三井物産の入社問題は次回書かせます。

2. レポートの構成

- ・資料1（レジメの3～4ページ）の二つの文章を学生に音読させて、何が違うか考えさせてください。

- ・1ページ目の下に、※印の注釈が二つあります：

→授業時間内で書くような短いレポート（次回出てくる分類だとA型・B型）の場合、序論は論点だけでなく主張まで書いてしまうのが普通です。しかし、期末レポートくらいの長さがあるレポート（次回の分類だとC型・D型）になると、主張も複雑で、序論にむりやり詰め込むことはできないでしょう。そのあたりを先回りして言っているのが一つ目の注釈です。後でまた出てくる話なので、今は詳しく触れなくてもいいです。

→二つ目の注釈は、レポートの「結論」で急に考察やら感想やらを書き始める人への注意です。

おそらく小学校・中学校で書く作文の「起承転結」の「結」と、レポートの「序論・本論・結論」の「結論」がごっちゃになっているのでしょう。

これも今回のような短いレポートではあまり問題にならないところなので、詳しく触れなくてもいいです。また後の回で触れます。

3. とりあえず書いてみよう、その1

- ・さっそく「序論・本論・結論」でレポートを書いてもらいます。

→「その1」なのは、次回の冒頭で、三井物産の入社試験の問題で「その2」をやるからです。

→ワークシートを用意しています。

→時間があれば、正解の発表前に4人くらいのグループ内で書いたものを読み合わせる、簡単なグループワークをしてください。

- ・このメモの2ページ目に、答えとその解説を転載しておきます。⑤（原文ではe）が正解です。

→個人的にはなんだか納得いかないところもありますが、まあここでは、答えが正しいかどうかではなく、ちゃんと序論・本論・結論の形で書けたかが大事なところです

→時間が、どういう風に進めるか（学生に読ませる？ 何人に読ませる？ など）は先生方にお任せします。

21 65歳の女性。腹痛を主訴として家族とともに緩和ケア外来を受診した。1年前に進行膵癌の診断で膵体尾部切除術を受け、1か月前から腹痛が出現した。局所再発、肝転移および腹膜播腫を認め、予後は2か月程度と考えられる。医師が患者に根治は困難であることを伝えた。患者は流涙したまましばらく沈黙が続いた。その後、医師が「お話を続けてもよろしいでしょうか」と声をかけると患者は頷いた。

次に医師がかける言葉として適切なのはどれか。

- a 「何か叶えたい希望はありますか」
- b 「来週落ち着いて話し合いましょう」
- c 「あまりお役にたてることはないようです」
- d 「残された余命について話し合いましょう」
- e 「今どのようなお気持ちか話していただけますか」

解説

解法の要点

患者の感情表現に対する対応を問う問題である。患者へ望ましくない情報を伝達する際のコミュニケーションスキルであるSPIKESモデルでは患者への共感（Empathy）により患者が抱く感情（ショック、孤独感、悲しみなど）を緩和することが重要なポイントの1つであり、この際患者の感情を言語化し、その理由を確認することが重要である。 **必**C10

選択肢解説

× a, d 患者の感情が収まらない場合、将来の予定や計画など他の問題について話し合うことは困難である。

× b 感情が収まるまで適切な時間を置くことは必要であり明らかな間違いとは言えないかもしれないが、予後の限られている状況では早めに適切な治療計画を立てるべきである。

× c 予後不良な疾患であっても重要な治療目標は多数あるため（疼痛コントロールなど）、このような態度は取るべきではない。

○ e 感情の言語化を助ける言葉である。 **必**C10

基本事項など

閉じる 

VOICE

こういう会話系は難しく考えず、患者さんの気持ちや考えを把握して、共感することが大事です。